

深見謙介さん（鬼窪健次）の仕事

◇ 1980年から1990年

- 長時間労働問題をめぐって、深見 謙介、損保調査時報 227号、1990—11
- 最近の賃金政策の勘向、深見 謙介、労働問題実践シリーズ第3巻、大月書店、1990—8
- 国民春闘と管理春闘——90春闘を終えて、深見 謙介、「勤労者通信大報」6、90—6
- 外勤労働者と賃金体系、講演、深見 謙介、損保調査時報 216号、1990—2
- 長時間・過密労働を考える、深見 謙介、青年運動 812号、1988—11
- 損保労働者の「貧困化」と産業のあるべき姿をあぐって、座談会、深見 謙介、損保調査時報、196号、1988—5
- 労働者を欺く賃金論・賃金闘争論、いまこそ国民春闘再構築を〈特集〉、独占・右翼的潮流のイデオロギ批判、深見 謙介、労働運動、266号、p80—87、1988—01
- 職階制賃金、職務給導入とその矛盾、ME化、高齢化と職能給導入の新たな展開事典『日本労働組合運動史』大月書店、87—7
- 損保産業と民主化のとりくみ、深見 謙介、損保調査時報 184号、1987—4
- 建設産業における賃金運動の諸問題、深見 謙介、建設 41号、1986—7
- 労働・生活・文化・社会長時間労働と労働組合の役割、パネルディスカッション、深見 謙介、損保調査時報 171号、1986—1
- 賃金体系改悪のねらいと闘い、国民春闘再構築めざして〈特集〉、深見 謙介、労働運動 242号、p98—105、1986—01
- 日本の賃金実態と政府・独占の賃金政策、深見 謙介、学習の友 86春闘別冊、86—1
- 現代における賃金闘争の諸問題、深見 謙介、日本の労働組合運動 3、大月書店、85—2

鉄鋼労連 反共労働運動の中心勢力、労働組合の動向と課題<特集>、単産の歴史と現状・問題点、深見 謙介、労働運動 227 号、p41—57、1984—10

産業別「合理化」シリーズ 2 鉄鋼 犠牲転嫁を許さず、地域ぐるみの闘いへ、深見 謙介 [他]、労働運動 220 号、p156—177、1984—04

日本経済の現局面と 84 春闘、座談会、深見 謙介、経済 288 号、1984—02

賃金要求方式の変遷とその動向、今日の賃金問題最近の労務管理・賃金要求方式<特集>、深見 謙介、賃金と社会保障 877 号、p20—32、1983—11—10

70 年代以降の労働組合の調査活動、鬼窪健次、労働調査 190 号、1983—11

80 年代の賃金政策と賃金理論、深見 謙介、損保調査時報 144 号、1983—11

賃金凍結路線と賃金闘争 76 年以降の停滞をこえられるか、83 年春闘読本、“サバイバル春闘” 83 年春闘を語りあおう、深見 謙介、賃金と社会保障 854 号、p43—47、1982—11—25

経済危機下における賃金問題、深見 謙介、労働組合運動の課題と展望、日本共産党中央委員会出版局〔1981—5『前衛』1979 年 9 号掲載と同じ論文〕

右翼的潮流の「経済整合性」論批判、深見 謙介、「労働者教育協会会報」31 号、81—2

賃金体系の動向と運動課題、81 年春闘読本、職場労働者編、81 年春闘をたたかう仲間へ、深見 謙介、賃金と社会保障 807 号、p35—38、1980—12—10

60 歳定年制企業における延長者賃金は「漸減」型が多数、鬼窪健次、賃金実務 422 号、80—9

職能給の導入などによる差別拡大に抗して、日本と世界の婦人労働者<特集>、闘いの現状と課題、深見 謙介、労働運動 169 号、p92—94、1980—01

中高年労働者の賃金問題、深見 謙介、現代中高年問題と労働組合、労働旬報社、1980—1

定年延長と賃金制度、深見 謙介、現代中高年問題と労働組合、労働旬報社、1980—1

◇ 1965 年から 1979 年

経済危機下における賃金問題、80 年代の労働組合運動の課題と展望 4、深見 謙介、

前衛 441 号、p127—136、1979—09

政府・独占は賃金体系をどう変えるか、深見 謙介、損保調査時報 107 号、1979—8

現代の貧困化と賃金の本質、深見 謙介、損保調査時報 104 号、1979—5

賃金の国際比較の技術論検討、深見 謙介、賃金と社会保障 765 号、p9—15、1979—03—10

賃金抑制を打破して実質賃金の向上を、79 春闘勝利への展望と課題、深見 謙介、労働運動 158 号、p55—63、1979—02

政府・独占資本の賃金体系改悪の方向、深見 謙介、国公調査時報 190 号、1979—1

組合活動家とともに考える 79 年国民春闘春闘抑圧に抗し大衆的春闘づくりを、79 年春闘読本〈特集〉、深見 謙介、清水 明、賃金と社会保障 760 号、p6—13、1978—12—25

労働戦線統一をめぐる右翼的再編の勤向と問題点、深見 謙介、青年運動 201 号、1978—12

独占資本の賃金体系改悪の方向年功賃金の修正と職務給化は何を意味するか、深見 謙介、前衛 429 号、p72—76、1978—09

すべての労働者は搾取されている、深見 謙介、「勤通大報」2 号、78—8

年功賃金の変容と限界、深見 謙介、経済 170 号、78—6

賃金の男女差別と同一労働同一賃金要求の歴史的展開、深見 謙介、講座現代の婦人労働 1、労働旬報社、78—6

賃金闘争における諸問題、深見 謙介、国公調査時報 180 号、1978—3

たたかひの確信つくる春闘問答、深見 謙介、学習の友 78 春闘別冊、78—1

資本蓄積と賃金体系の変化、深見 謙介、経済 164 号、77—12

賃金体系闘争の意義を強調、現代フランスの賃金問題と日本—先進資本主義国における経済危機下の賃金闘争、CGT の賃金政策を読んで、深見 謙介、賃金と社会保障 731 号、p19—22、1977—10—10

鉄鋼労連の「賃金自粛論」批判、深見 謙介、「勤通大報」5 号、77—10

私のマンガ論——手塚治虫論、深見 謙介、「わだち」7 号、77—5

鉄鋼での職務給の破綻と労働者の賃金体系要求上、77 国民春闘の勝利へ〈特集〉、深見 謙介、労働運動 133 号、p67—78、1977—01

- * 基本賃金に関する政策について、鬼窪健次、総合労働研究所、1977
 - * 諸手当について、シンポジウム、鬼窪健次、総合労働研究所、1977
 - * 退職金・年金について、シンポジウム、鬼窪健次、総合労働研究所、1977
 - * 労働組合の調査活動等について、シンポジウム、鬼窪健次、総合労働研究所、1977
- 77 年春闘と賃金要求のあり方、77 年春闘読本、77 年春闘と賃金要求のあり方、深見 謙介、賃金と社会保障 711 号、p34—39、1976—12—10
- 損保労働の位置づけと外勤労働者の賃金、深見 謙介、損保調査時報 81 号、1976—8
- 鉄鋼独占資本の新たな攻撃方向、産業別シリーズ 2 鉄鋼、深見 謙介、労働運動 127 号、176—185、1976—07
- わが単産の当面する賃金・賃金体系問題 鉄鋼労連、鬼窪健次、賃金と社会保障 700 号、76—3
- 鉄鋼業における職業技術教育と賃金決定、深見 謙介、現代の労働組合運動 6、大月書店、76—3
- 政府・大資本家の主張をみる、深見 謙介、学習の友 76 号、1976—1
- 76 年春闘と要求方式・賃金体系改善のたたかい、76 年春闘読本、76 年春闘の主要課題と組織・闘争論、深見 謙介、賃金と社会保障 687 号、p47—51、1975—12—10
- 賃金要求についての基礎知識、深見 謙介、学習の友：賃金「合理化」の基礎知識、75—10
- 婦人の賃金はなぜ低いか、75 年婦人労働読本、第二部・婦人労働者の状態と要求の特徴、深見 謙介、賃金と社会保障 673 号、p35—40、1975—05—10
- 賃金抑制・雇用不安拡大下の労働者階級の状態、75 年春闘経済読本、第 2 部・激変する現代日本経済の諸問題とその動向、深見 謙介、賃金と社会保障 668 号、p41—47、1975—02—25
- 大幅賃上げ、深見 謙介、学習の友 75 春闘別冊、75—1
- * 個別賃金要求をどうすすめるか、鬼窪健次、労務行政研究所、1975—1
- 賃金要求方式と賃金体系闘争、75 年春闘読本、第 2 部・75 春闘の主要課題とたたかいの方向、深見 謙介、賃金と社会保障 663 号、49—52、1974—12—10
- 賃金体系の最近の動向「昭和 48 年賃金労働時間制度総合調査」速報より、資料と

解説、深見 謙介、賃金と社会保障 656 号、19—20、1974—08—25
鉄鋼労連の賃金政策とその課題、鬼窪健次、労働調査 86 号、1974—8
書評：今日の賃金体系闘争前進に大きな指針、高木督夫・深見 謙介著「賃金体系と労働組合」、上・下、川辺 平八郎稿、賃金と社会保障 652 号、49—53、1974—06—25
賃金体系と労働組合（上）、深見 謙介、高木督夫氏と共著、労働旬報社、74—3
賃金体系と労働組合（下）、深見 謙介、高木督夫氏と共著、労働旬報社、74—4
賃金体系の最近の動向、深見 謙介、賃金と社会保障 656 号、74—4
日本経済の動き——インフレの激化と石油危機、74 春闘・職場討議資料、特集、鬼窪健次、月刊労働問題 192 号、68—73、1974—02
日本経済の動き、鬼窪健次、月刊労働問題 192 号、1974—2
鉄鋼労連—最近の春闘相場形成の特徴——単産別春闘パターンの変化、最近 4 年間の単産春闘パターンの変化産業別にみた賃上げの相場形成・配分・格差について、鬼窪健次、労働経済旬報、917 号、13—16、1974—02—01
グラフ春闘資料、深見 謙介、学習の友 74 春闘別冊、74—1
連載 搾取のしくみ、深見 謙介、学習の友 249 号、74—5
連載 搾取のしくみ、深見 謙介、学習の友 250 号、74—6
連載 搾取のしくみ、深見 謙介、学習の友 251 号、74—7
連載 搾取のしくみ、深見 謙介、学習の友 252 号、74—8
連載 搾取のしくみ、深見 謙介、学習の友 253 号、74—9
八幡製鉄所における賃金体系の変化、市川先生と鉄鋼経済研究、深見 謙介、政経研究 18 号、p43—67、1973—11
残業が減ると食えない、深見 謙介、学習の友 243 号、73—11
鉄鋼産業における賃金体系の変化と問題点、民間産業における賃金体系の問題点、特集、鬼窪健次、賃金と社会保障 636 号、4—11、1973—10—25
鉄鋼業における職能給化の進行、深見 謙介、労働・農民運動 91 号、119—126、1973—09
社会主義の賃金と労働者の生活、鬼窪健次、金属労働資料 113 号、73—5
鉄鋼産業の作業長の賃金、研究討論、深見 謙介、労働・農民運動 73 号、68—80、1972—04
資格制度と労働組合、深見 謙介、金属労働資料 98 号、72—4

72 春闘の賃金要求方式、みんなで考える今のテーマ、深見 謙介、労働・農民運動 71 号、188—193、1972—02

職能給、資格制度といたにたたかうか——資本の新しい賃金政策と賃金体系闘争、深見 謙介、旬刊賃金と社会保障 563 号、3—21、1971—04—15

鉄鋼産業の職務給是正闘争、鬼窪健次、賃金と社会保障 512 号

マルセイ運動は労働者に何を約束するか〈座談会〉、鬼窪健次、月刊こくろう 115 号、1971—3

「合理化」反対と賃金闘争の結合——体系改善闘争などを中心に、今日の賃金闘争、総特集、深見 謙介、労働・農民運動 59 号、52—62、1971—02

鉄鋼における資格制度、鬼窪健次、全通時報 120 号、1970—6

職務給闘争：特集 2 鉄鋼産業の職務給是正闘争—八幡労組のたたかいを中心に、鬼窪健次、旬刊賃金と社会保障 512 号、4—18、1969—11—15

賃金体系改悪とどうたたかうか、深見 謙介、労働・農民運動 37 号、72—81、1969—04

「長期賃金政策」のねらいと役割、深見 謙介、労働・農民運動 35 号、106—115、1969—02

I M F ・ J C の正体、深見 謙介、労働・農民運動 19 号、1967—10

鉄鋼労連の「産業政策」の問題点、片野、労働・農民運動 14 号、67—5

職務給、深見 謙介、労働・農民運動 11 号、1967—2

* 職務給反対闘争の教訓、鬼窪健次、労働旬報社、1966

* 職務給の各産業への導入の状態、鬼窪健次、労働旬報社、1966

特殊鋼「再編成」と労働者のたたかい、鬼窪健次、旬刊賃金と社会保障 352 号、1965—06

▽『金属労働研究』、金属労働運動研究所、1998年7月・第34号

鬼窪健次さんのご逝去7年目です。酒酌みかわして偲びました

1991年5月15日、春闘共闘委員会のかんたんな打ち上げの会のあと、急に心臓発作を起こして、鬼窪健次さん（筆名、深見 謙介で賃金問題を担当、元鉄鋼労連→統一労組懇自治体協議会→全労連）がなくなられてから早いもので丸7年が経過しました。

この際、古くからの友人・戦友が鬼さんとかれの仕事などを宥に酒酌みかわす集いをもってはどうだろうというご提案を芹沢寿良さん（元鉄鋼労連、その後高知短大教授）から頂戴いたしました。義兄の塚田義彦さん（元合化労連書記長）とご相談し、1998年6月9日（火）午後6時～9時、新宿・柳通り、通称しょんべん横丁の「安兵衛」＝ここはその昔、金属の大先輩佐竹五三九さんが行きつけにしていた飲み屋です＝で10人が集って一杯のみました。

参加は50音順に川辺平八郎（東京経済大学教授）、岸本直美（全労連事務局次長、鬼さんの葬儀などを全労連でとりしきってくれた方）、草島和幸（元全労連、シリーズ労働運動、社会保障の巻執筆）、後藤実（元全国金属）、芹沢寿良、高木督夫、塚田義彦、辻岡靖仁（労働者教育協会会長）、西村直樹、古屋孝夫（金田豊）の10名。

7日夜、ILO総会に出席され、ジュネーブから帰ってきたばかりの岸本さんや長期間のイタリア留学からお帰りの高木さん（法政大学名誉教授）などがおられ、話が尽きませんでした。

鬼さんは文字どおりの酒の肴で、草の下で苦笑しているか、「待ってくれ、そりゃちがうよ」、などといいだしかねない雰囲気でしたが、辻岡さんから、鬼さんの「資本論」第2、3巻の詳細な講義レジュメをもっていること、鬼窪健次さんは80年代に東京労働学校の「資本論」講座を担当、これを文章化して出版できればわが国の「資本論」研究に多少の貢献ができるのではないかという提案もなされ、多少は生産的な集いにすることができたかと自賛している次第です。誰がその仕事を担当するかまでは話がいきませんでした。

それはそれとして、この集りがきっかけになって、金属労働研究所第9回理事会で、せっかくだからこの機会に鬼さんの著書目録を整理しておいたらいいので

はないか、ということが合意されました。このお仕事を後藤実さんが整理してくれましたので金属機械産業労働組合運動に1歩をさざまれた活動家の記録として、以下に紹介させていただきます。後藤さんは少しづつ埋めて漏れのないものにしたので今回原稿は草稿扱いにしてほしい、と述べておられます。(金属労働研究所・西村直樹)

* 鬼窪健次、深見謙介著書・雑誌論文一覧

鬼窪健次氏著述目録、草稿

後藤実

《解説》

1、鬼窪健次氏は、労働組合運動のなかで育ったすぐれた理論家であった。とくに彼の賃金論・賃金体系論は現在および今後の運動の発展に寄与する貴重な労作である。

去る6月9日に行われた「鬼さんを偲ぶ会」の席上、その執筆目録を記録しておこうということになり急いで整理した。彼は、東京学習会議で『資本論』のチューターをしており、その詳しいレジュメが残されているが、まとめられてはいない。

1977年に勤労者通信大学報に書いた「私のマンガ論——手塚治虫讃」は、マンガや切手の蒐集など彼の多趣味な一端を示した興味深い原稿である。

鬼窪健次氏が執筆したものはまだあると思われるのでこの目録は草稿とし、今後判明したものを追加して完成していくことにした。混れているものがあれば教えていただきたい。

2、鬼窪健次氏は、深見 謙介というペンネームで書くことが多かった。ほかに片野清治という筆名を使ったことが判明している。ペンネームについてもご存じの方があれば教示ねがいたい。

3、目録の配列は次のようになっている。(以下、上記業績へ整理した)

▽『金属労働研究』、金属労働運動研究所、1998年9月・第35号

本誌前号に、鬼窪健次氏の著述目録、草稿を掲載したが、その後の調査で判明した分を、補遺として掲載する。目録の配列は前号と同じである。

この補遺作成にあたって芹沢寿良氏、金属労研理事からご紹介いただいた大原

社研資料系の御子柴啓子さんにお世話になった。お礼申し上げます。

なお*印（上記業績リスト）は、現物を見る機会がなかったので、今回は刊行物の名前を記載することができなかった。大原社研で調べて正確な刊行物名をあとがきに記した冊子に記載ことにしたい。

あとがき

本誌読者の二見伸吾さん（広島県労働者学習協議会）から編集部にお手紙をいただいた。

「深見 謙介氏の著作目録は参考になったが、これをもとに著作集がでるといいと思うので検討願いたい」という内容であった。

ご承知のような現在の出版事情では著作集の刊行などどうていのぞむべくもない。そこで前号と本号の著述目録のなかからぜひ読んでほしいと思われる論文を発行者の了解を得て数編選んでコピーし、そのなかにはユニークな『私のマンガ論』も含めたい、この著述目録も整理して不備を補い、写真、略歴もつけた冊子を限定版で作成し希望者に実費頒布することを提案したい。ご賛同が得られるでしょうか。

（後藤 實）